

パプアニューギニア・LNGプロジェクトの共同事業契約の締結について

記者各位

当社(社長:西尾 進路)グループの石油開発部門である新日本石油開発株式会社(社長:大森 輝夫)が出資する日本パプアニューギニア石油株式会社の100%子会社(マーリンペトロリアム)が、3月13日(木)に、パプアニューギニア独立国でのLNGプロジェクトに参加する企業間で、LNGプロジェクト事業化の可否についての検討、および事業化決定後の天然ガス開発、パイプライン敷設、LNGプラント建設、事業運営に関する権利・義務について共同事業契約を締結しましたのでお知らせいたします。

本プロジェクトは、パプアニューギニア独立国における初めてのLNGプロジェクトになります。パプアニューギニア中央部のサザンハイランズ州およびウエスタン州に位置するガス田(ジュハ、ハイズ、アンゴレ)および油・ガス田(モラン、クツブ、ゴベ)から生産される天然ガスを、全長700キロメートルを超えるパイプラインで首都ポートモレスビーの近郊まで輸送し、今後建設を予定しているLNGプラントで液化する計画となっており、LNGの生産数量は年間630万トンを見込んでいます。

今後は、2013年後半のLNG生産開始を目指し、参加企業およびパプアニューギニア政府との協議を経て、事業化の可否について検討を進めてまいります。

以上

● 別添資料

 [パプアニューギニア・LNGプロジェクトの位置図\(905.9KB\)](#)

 [パプアニューギニア・LNGプロジェクト参加企業の概要\(18.4KB\)](#)